

温室効果ガス総排出量の現状及び施策実施の状況

2024（令和6）年度における可茂衛生施設利用組合（以下「当組合」という。）の事務事業に係る「温室効果ガス総排出量」は集計の結果、23,472 t-CO₂ となりました。

これまでの取組を継続的に実施するとともに、より一層、温室効果ガス削減の意識向上を図ってまいります。

（1）温室効果ガスの総排出量

組合の事務事業における2024（令和6）年度に排出された温室効果ガスの総排出量は図－1、グラフは図－2のとおりです。

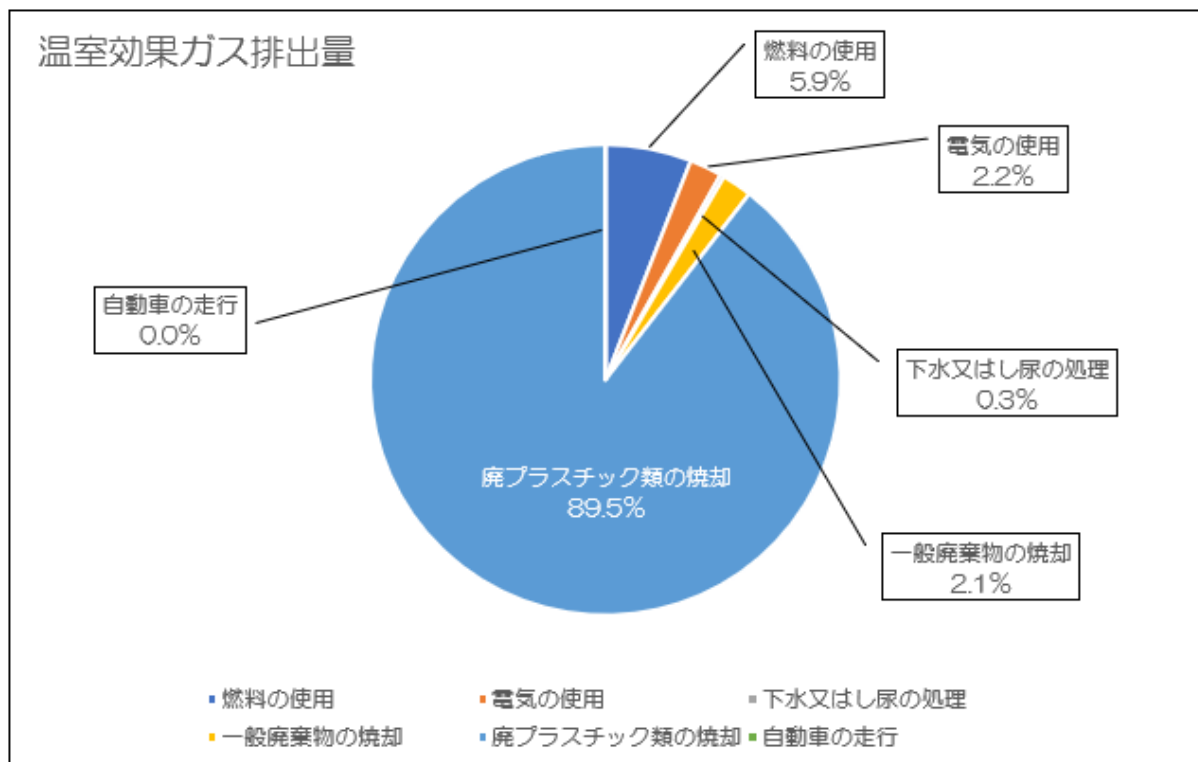
図－1

t-CO₂

区分	二酸化炭素	メタン	一酸化二窒素	計
燃料の使用	1,382	6	1	1,389
電気の使用	523	0	0	523
下水又はし尿の処理	0	8	57	65
一般廃棄物の焼却	0	4	480	484
廃プラスチック類の焼却	21,011	0	0	21,011
自動車の走行	0	0	0	0
合計	22,916	18	538	23,472

※「自動車の走行」は、実績はあるが整数に満たないため0表記となっています。

図－2



※「自動車の走行」は、実績はあるが整数に満たないため0%表記となっています。

(2) 施策実施の状況

可茂衛生施設利用組合地球温暖化対策実行計画（事務事業編）第5章における取組状況は以下のとおりです。

①市町村との連携及び住民、事業者に向けた取組

取組項目	取組内容	状況
3 R の推進	<ul style="list-style-type: none">・当組合が発行する広報紙、ホームページ等を活用し、住民及び事業者に対して、ごみの減量化や資源化等を推進する。・当組合が開催するイベントや市町村が開催するイベントへの協力によりごみ問題、環境問題の啓発を行う。・小学校の社会科見学等の受け入れによる環境教育を継続する。・廃棄物処理抑制や環境啓発の目的で実施しているリサイクル自転車再生事業を継続する。・エコサイクルプラザの見学者に対して、ごみ減量や温室効果ガス削減などの環境問題を啓発できるよう工夫する。	広報紙は年2回発行し、ごみの減量及び5 R等を周知。 年数回にわたり再生自転車の無料抽選会、廃棄物を利用したリサイクル工作のイベントを開催。
廃プラ類の分別・リサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none">・市町村がプラスチックごみを2030（令和12）年度までに1,724トン以上回収できるように、市町村と連携を図る。	年に数回、協議会を設け、回収実施に向けて検討している。

②エネルギー使用に関する取組

1) 全施設に関する取組

取組項目	取組内容	状況
電気使用量の削減	空調設備 <ul style="list-style-type: none">・ブラインド等を使用し冷暖房効果を高める。適切な温度設定を行うなどの基本的な省エネルギーの取組みを継続的に推進する。・設備更新の際には高効率機器を導入する。	省エネを意識した空調の温度設定を実施している。
	照明設備 <ul style="list-style-type: none">・不要な照明をこまめに消灯する。照明が必要な範囲を精査するなどの基本的な省エネルギーの取組みを継続的に推進する。・LEDなどの高効率型の照明機器への更新を推進する。	休憩時間に消灯するなどの省エネを図っている。
	その他 <ul style="list-style-type: none">・パソコンや複合機などを節電モードに設定するなど機器類の待機電力を削減する。自動ドアやエレベーターの使用を控えるなど基本的な節電の取組みを継続的に推進する。・設備機器の更新、新規導入に際しては、省エネ型への更新を検討する。	節電、スリープモードを活用。PC画面の照度を調整。

公用車の燃料 使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ、急発進急ブレーキを控えるなど省エネ運転を心がける。 ・タイヤの空気圧調整など定期的な車両の点検・整備を実施する。 ・Web会議システムを活用するなどで公用車利用の抑制に努める。 ・公用車等の効率的利用等を図るとともに、公用車の使用実態等を精査し、台数の削減を図る。 	公用車の効率的な使用を意識し、運転頻度を縮小。Web講習への参加、受講。
公用車の低燃費型車両の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・更新時には電気自動車やハイブリッドカーなど低燃費型車両の導入を検討する。 	現時点では車両更新の予定はない。

2) 施設の運転管理及び運営維持管理に関する取組

取組項目	取組内容	状況
ささゆりクリーンパーク	<ul style="list-style-type: none"> ・電力量の低減に努めるため、効率的な運転計画に基づいた運転管理を実施する。 ・可燃ごみ処理施設焼却炉の停止とならないよう安定稼働の継続に努める。 ・設備不具合の早期発見ができるよう運転監視体制を強化する。 ・ごみの均一的な攪拌を行い、良好な燃焼状態の継続による安定した発電を確保する。 ・共通停止期間中の使用電力量の抑制による購入電力量の低減に努める。 	施設の臨時停止が発生しないよう安定稼働に努めている。きめ細やかな運転監視により、施設の予防保全に努め、安定的な施設稼働ができています。
緑ヶ丘クリーンセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・購入電力量の低減に努めるため、効率的な運転計画に基づいた運転管理を実施する。 ・廃棄物の性状に合わせた設備の稼働日数や稼働時間を調整する。 	搬入量に応じた施設の稼働時間を徹底管理。
可茂聖苑	<ul style="list-style-type: none"> ・火葬炉の効率的な稼働による燃料使用量の低減に努める。 ・来場者及び施設従事者に合わせた適切な空調管理に努める。 	来場者が不快にならない温度管理に努めている。
わくわく体験館	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス溶解炉の温度管理を徹底する。 ・自営線による送電に伴って、既存ガス設備の電力化の検討をする。 	ガラス溶解炉の電力化実施済み。

③その他の取組

取組項目	取組内容	状況
各種計画への反映	・各種計画作成に際して、温室効果ガス削減の検討を踏まえて作成する。	高効率導入を視野にした中長期施設整備計画の見直し。
電力調達先の検討	・温室効果ガス排出係数の低い小売電気事業者の選択を図る。	係数の低い電気事業者と契約している。
紙使用量の削減	・用紙類の使用量を削減するため、ペーパーレス化や業務における資料の簡素化、両面印刷を推進する。 ・文書や資料等の電子化共有を図る。 ・使用済み封筒を再利用する。	ペーパーレス化及び両面印刷による省資源を実施。文書、資料等の電子化共有を実施している。

資料編《参考》

温室効果ガス総排出量の年度推移

温室効果ガス総排出量の実績推移

(t-CO₂)

年度	二酸化炭素	メタン	一酸化二窒素	合計
2013	32,118	52	887	33,057
2014	32,516	52	880	33,448
2015	26,907	52	857	27,817
2016	29,793	50	930	30,774
2017	27,320	51	856	28,227
2018	26,992	50	927	27,968
2019	28,126	55	885	29,067
2020	26,233	55	883	27,171
2021	27,081	54	875	28,010
2022	25,087	54	859	26,000
2023	21,212	60	738	22,010
2024	22,916	18	538	23,472

温室効果ガス総排出量の実績推移

